

カラスシキミ ジンチョウゲ科
Daphne miyabeana Makino

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



大山 2010.7.8 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では東部と大山のブナ帯上部にのみ自生，個体数が少なく，増加のようすはない。

■**特徴**：やや高地の山林中に生育する常緑小低木。雌雄異株。高さ1 m以下で横にはうことが多く，幹は容易には折れない。葉は互生，倒披針形，全縁で表面に光沢がある。葉柄はほとんどない。日当たりのよい落葉樹林内の尾根に生え，形の似たミカン科のツルシキミと同所的には生えない傾向がある。花期は6月，枝先に集まって10個ほどの白色の花をつける。筒状で長さ約5 mm。果実は球形で7-8月に赤く熟し目立つ。有毒。

■**分布** 県内：若桜町，大山町，江府町，日南町。 県外：北海道，本州（島根県隠岐以東の日本海側）。

■**保護上の留意点**：自然林の保全。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：西尾幸弘

マメグミ グミ科
Elaeagnus montana Makino

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2010.8.1 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の山地に自生が知られるのみで，個体数が少ない。太平洋側に分布が多く，日本海側では希少の傾向がある。

■**特徴**：山地の尾根などに生育する落葉小低木。高さ2 m内外。古い枝は灰黒色。本年枝は赤褐色の鱗片毛が密生する。葉は互生，卵状楕円形，鋭突頭，やや厚く，ふちは波打つ。裏面は銀色の鱗片毛が密生し，赤褐色の鱗片毛が散生する。花期は6-7月，白色後に黄色を帯び，葉腋に1-3個下垂する。萼筒の内側に星状毛を散生する。果実は小さく長さ1 cm内外。扇ノ山の林道林縁，氷ノ山山系赤倉山の岩場に自生する。

■**分布** 県内：扇ノ山，赤倉山。 県外：本州（関東-紀伊半島の太平洋側），四国，九州。

■**保護上の留意点**：山地の自然植生の保護。赤倉山の自然植生保全は多くの希少植物保護のため特に重要。

■**文献**：38.

執筆：坂田成孝

ダイセンキスミレ スミレ科
Viola brevistipulata (Franch. et Sav.) W.Becker subsp. *minor* (Nakai) F.Maek. et T.Hashim.

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



大山 2010.5.18 / 撮影：鷲見寛幸

■**選定理由**：大山が代表的な産地であり，分布上重要である。大山の代表的な草本のひとつでもあり，生育に留意すべきである。

■**特徴**：山地の砂礫地，風衝草原などに生育する小型の多年生草本。茎は帯赤紫色で高さ約5 cm。根出葉は円心形で急鋭頭，基部は心形となり，長さは約2 cm。下面の葉脈や葉柄は赤紫色を帯びる。5月頃，名前のとおり黄色の花を咲かせる。県内では，黄色い花のスミレはこの種だけである。茎を持つオオバキスミレの変種で，中国地方では大山，蒜山，道後山などに生育する。

■**分布** 県内：倉吉市関金町，大山町，伯耆町，江府町。 県外：本州（日本海側の山地）。

■**保護上の留意点**：自生する砂礫地，風衝草原の植生保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：鷲見寛幸

ヒゴスミレ スミレ科*Viola chaerophylloides* (Regel) W.Becker var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2010.5.3/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：草原や明るい落葉樹林の林床を好むが，県内での生育適地が減少し，自生地，個体数ともに少なくなっている。

■**特徴**：日当たりの良い草原や乾燥ぎみの落葉樹林内に生育する小型の多年生草本。葉は基部から5裂，裂片はさらに深く裂ける。花のあとは10 cmほどになり，各裂片の幅が広がる。花は径1.5–2 cm，良い香りがするものも多い。形の似たエイザンスミレは淡紅色，葉は深く3裂。エイザンスミレは半日陰を好み，太平洋側低山に多い傾向がある。ヒゴスミレもエイザンスミレも，ほかの無茎種との間に自然交配がおりやすい。両種とも分布範囲は似ているが，ヒゴスミレは西日本に多い。

■**分布** 県内：点在。 県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：採取防止，山地の草原維持，自然林の保護。

■**文献**：—

執筆：井上喜美子

イソスミレ スミレ科*Viola grayi* Franch. et Sav.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取市 2011.4.26/撮影：永松 大

■**選定理由**：鳥取県東部が分布西限。鳥取砂丘では松枯れのため環境が変化してススキ草原化がすすみ，生育適地が減少。個体群縮小。花が華やかなため採取圧も想定される。

■**特徴**：砂浜に続く砂丘の上，海岸性の低木，防風林の中で生育する小型の多年生草本。地下茎は匍匐し，根は深い。葉は肉厚で光沢がある。花期は4月下旬–5月，距は白。花卉は幅広く径2–2.5 cmと大型でふくよか，美しい。タチツボスミレの仲間。

■**分布** 県内：千代川東側の砂丘林縁，防風林内。鳥取市伏野では近年未確認。湯梨浜町では2006年以降消滅か。 県外：北海道–鳥取県東部の日本海側。北海道–青森県八戸の太平洋側。

■**保護上の留意点**：海岸砂丘クロマツ林の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：井上喜美子

ツルタチツボスミレ スミレ科*Viola faurieana* W.Becker var. *rhizomata* (Nakai) F.Maek.et Hasimoto

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



扇ノ山 2010.6.1/撮影：上田康恵

■**選定理由**：県内ではブナ帯多雪地の尾根筋に生育する傾向があり，生育場所が限られる。

■**特徴**：日本海側の標高の高い多雪なブナ帯に生育する小型の多年生草本。日本海要素を構成する種のひとつ。つる状に茎を延ばし，先端に新株をつくるので面的に広がりやすい。このようすから別名クモノスミレともよばれる。花期は5月中旬–6月。花は淡紫色–白色に近く，タチツボスミレよりも小形で繊細。唇弁の距は白色で先が細くなる。葉は腎形–三角形，基部は切形–浅い心形。

■**分布** 県内：鳥取市国府町，智頭町，若桜町，三朝町，大山町。扇ノ山山系に比較的多産。600–1300 mのブナ林林床，林道沿い。 県外：本州（秋田県–鳥取県の日本海側）。

■**保護上の留意点**：ブナ帯の自然林の保護。

■**文献**：—

執筆：井上喜美子

サクラスミレ スミレ科

Viola hirtipes S.Moore

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



江府町 2009.5.13 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の自生地は東部と西部の山地草原に2カ所のみ。個体数はごくわずか、草地の管理しだいで絶滅のふちにある。

■**特徴**：山地の草原に生育する小型の多年生草本。葉柄と花柄に縮れた軟毛がある。地下茎は短い。葉は長卵形で長さ5 cmほど、夏にかけて大きくなる。基部は心形。花期は5月。花は国内のスミレの中で最大で、花弁は2 cmにもなる。若桜町ではススキ草地に生育し、春先ススキが成長する前に展葉、開花する。夏はススキの密な群落となり、生育条件は良くない。最近、雪崩防止目的で自生地に広葉樹植林が行われ、下草刈りされているためしばらくはサクラスミレにとって好適な環境の維持が期待される。

■**分布** 県内：若桜町、江府町。 県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地草原の保護、保全。

■**文献**：13,51.

執筆：永松 大

ケマルバスミレ スミレ科

Viola keiskei Miq.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2010.5.18 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：生育地がきわめて限定されており、個体数も極めて少ない。県内では数カ所にしか生育していない、孤立している。

■**特徴**：山地の向陽地から半日蔭の土手や落葉樹林下に生育する多年生草本。崩れやすい斜面に多い。地下茎は短く密接する節がある。花柄は高さ5-10 cm。長柄があり、葉は長さ2-4 cmの卵形で、基部は心形。茎や葉には粗い毛がある。花期は4-5月、花は白色、直径2 cm前後。萼は鈍頭で、長さ6-8 mm、附属体は四角形でやや歯牙がある。唇弁の紫条はごく少なく距は長さ6-7 mmで太い。花柄や萼片には粗い毛が生えているものが多い。マルバスミレはケマルバスミレの無毛品にあてられたもの。

■**分布** 県内：若桜町、日野町、日南町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：道路斜面に生育しており、刈り払い時に注意。

■**文献**：—

執筆：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

アナマスミレ スミレ科

Viola mandshurica W.Becker var. *crassa* Tatew.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



岩美町 2010.4.16 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：北海道から本州の日本海側海岸砂浜にみられ、弓ヶ浜半島が分布西限。県内の分布は少なく、環境変化により希少化が著しい。

■**特徴**：海岸型の小型多年生草本。地下茎は砂中に根を下ろし、高さ約15 cm。葉は長楕円状披針形、光沢があり叢生する。花期は4-5月、大型、濃紅紫色で多数叢生、距は長い。やや安定した海岸砂地で砂が常に補給される場所に見られる。飛砂減少やハマゴウ・テンキグサ等の繁茂により個体数は減少する。本種は、県内各地にふつうに見られるスミレの変種。葉は無毛で光沢があり、葉が表側に強く巻き込むのが特徴。

■**分布** 県内：岩美町、湯梨浜町、米子市。 県外：北海道、本州（鳥取県以北の日本海側）。

■**保護上の留意点**：海岸砂地の自然環境の保全と植生の保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

アカネスミレ スミレ科

Viola phalacrocarpa Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2006.5.8/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：日当たりの良い山地の草原や林縁にやままれに生育する。山地草原の減少とともに、自生地、個体数ともに減少している。

■**特徴**：山地の草原に生育する小型の多年生草本。地上茎のないスミレ。葉は斜めに開き、ふつう花より低い位置になる。葉は長三角形から楕円形までさまざま。高さ5-10 cm、花期は4-5月、径1.5 cm前後、名前のとおり茜色だが変異が多い、全体に毛が多く、距にも毛があるのは特徴的。距は細長い。正面からは雄しべはほとんどみえない。側弁の基部以外は無毛のものをオカスミレと呼ぶ（三朝町俵原に生育）。

■**分布** 県内：点在。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：山地草原植生の保全管理。

■**文献**：13.

執筆：井上喜美子

アケボノスミレ スミレ科

Viola rossii Hemsl.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2006.5.8/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内ではやや標高の高い明るい草原に点在するが、自生地は限られる。花が大きく美しいため採取されやすい。

■**特徴**：山地草原に生育する小型の多年生草本。無茎系のスミレ。4月中旬-5月の花期にはまだほとんど葉を展開してない。葉は先が細くとがった心形。花は大きく径2-2.5 cm。花弁の幅は広く、互いに重なりあい華やかに咲く。鮮やかな紅紫色から曙の空を連想してこの名がついた。距は長さ幅とも4 mmほど。スミレサイシンが日本海側型の生育環境を好むのに対し、本種は太平洋側の山地に多い傾向。西日本では少ない。

■**分布** 県内：山地の採草地跡に点在，智頭町，若桜町，倉吉市関金町，日野町，日南町。県外：北海道，本州，四国，九州。朝鮮，中国。

■**保護上の留意点**：山地草原の維持，保護。

■**文献**：51.

執筆：井上喜美子

ミヤマニガウリ ウリ科

Schizopepon bryoniifolius Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2005.8.21/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では扇ノ山，氷ノ山山系のブナ帯溪谷沿いにのみ自生し、個体数も少ない。生育適地が限られており、個体群の維持に懸念がある。

■**特徴**：山地の溪谷沿い林縁に生育する1年生つる植物。両性株と雄株があるという珍しい特徴を持つ。葉は心円形-卵心形の5-7角状で放射状に脈があり、先は尖る。基部は円心形。花期は8-9月、色は黄白色。両性花の花序は下垂し、雄花序は直立する。果実は長柄があって下垂し、卵形で長さ約1 cm、表面に突起がある。ブナ帯溪谷沿いの林縁、湿気の多い崖状地の落葉広葉樹林内に生育する。

■**分布** 県内：八頭町，若桜町。県外：北海道，本州，九州。

■**保護上の留意点**：山地の自然植生の保護。

■**文献**：—

執筆：西尾幸弘

エゾミソハギ ミソハギ科
Lythrum salicaria L.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



伯耆町 2010.9.19 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内での生育地は極めて限定され、それぞれの生育地が孤立している。個体数も少ない。

■**特徴**：低地の溝や湿地に群生する高茎の多年生草本。根茎は横走り茎は高さ50–150 cmになる。上部で分枝する。葉は対生から3輪生、長披針形–広披針形、長さ3–6 cm、鋭頭。葉と苞葉は裏面に毛状突起があり、茎を抱く。花期は7–9月、穂状花序をつけ、紅紫色の6弁花を咲かせる。萼片の間の付属片は針状直立。茎の上部や萼に毛状突起がある。類似種のミソハギは茎無毛、葉と苞葉の基部は細まり茎を抱かない。付属片は横向き。

■**分布** 県内：三朝町、琴浦町、大山町、米子市、伯耆町。 県外：北海道、本州、四国、九州。北半球各地、オーストラリア。

■**特記事項**：耕作放棄され、ススキ等に被圧された自生地がある。ミソハギ同様、盆花として採取される。湿地や水路の保全管理、草刈りが必要。

■**文献**：—

執筆：藤原文子（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

エゾミズタマソウ アカバナ科
Circaea lutetiana L. subsp. *quadrisulcata* (Maxim.) Asch. et Magnus

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



採集標本：鳥取市国府町 1975.8.5 / 田中昭彦

■**選定理由**：県内では東部のブナ林下で採集された記録があるが、近年は複数の調査によっても確実な生育確認がない。

■**特徴**：山地の林下に生育する多年生草本。茎の高さ約40 cm、無毛。葉は狭長卵形、鋭突頭、縁には低凸端鋸歯。花期は7–9月、白色–微紅色で花弁は2中裂。花序には短い腺毛を密生する。近縁のミズタマソウは県内の低山からブナ帯にふつうで、茎に下向きの細毛があり、花序にもほとんど毛がないことで区別する。氷ノ山山域ではシカによる食害が増加しており、本種についても被害が心配される。

■**分布** 県内：氷ノ山、扇ノ山（標本）。 県外：北海道、本州（関東北部と氷ノ山山域に隔離分布するとされる）。

■**保護上の留意点**：ブナ帯域森林の保護、保全。

■**文献**：28,87.

執筆：田中昭彦

イワアカバナ アカバナ科
Epilobium amurense Hausskn. subsp. *cephalostigma* (Hausskn.) C.J.Chen, Hoch et Raven

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2009.7.23 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内で確認されている自生地は、氷ノ山と大山に限られており、個体数もわずかである。

■**特徴**：山地–亜高山の沢沿いなど湿ったところに生育する多年生草本。高さは30 cm前後で、葉は対生、長さ約4 cm、幅約1.5 cmの長楕円披針形で、縁には細かい鋸歯がある。7月下旬–8月上旬にかけて径約1 cmの白–淡紅色の花を咲かせる。花弁は4個で先端に切れ込みがある。雌しべの先端は丸く、柱頭が球状になっている。大山では、やや湿った登山道脇や側溝内に生育している。

■**分布** 県内：若桜町、大山町、伯耆町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：登山道脇に生育しているため、踏みつけなどに注意。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

ヒメアカバナ アカバナ科

Epilobium fauriei H. Lévl.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2010.8.5/撮影：松田万由美

■**選定理由**：大山は本州での生育南西限。絶えず崩壊する沢の砂礫地に生育するが、適地はわずかで個体数も少ない。

■**特徴**：高山，亜高山の岩場，砂礫地に生育する小形の多年生草本。高さは5–15 cm。葉は対生し，長さ1–2 cm，幅1–4 mmの線形または線状長楕円形で，縁には粗い鋸歯がある。先端は鈍頭，基部は細くなる。花期は7–9月，淡紅色で先端が2浅裂した4枚の花弁をもつ径5 mmほどの小さい花をつける。萼には白い伏毛がある。柱頭はこん棒状。子房下位。蒴果は細長く，長さ2–3 cmほど。絶えず崩落が続く大山で，本種は，やや安定した砂礫地に先駆的に生育し，砂防用堰堤付近などに多数生育がみられる。

■**分布** 県内：大山町。本州の南限。県外：北海道，本州。

■**保護上の留意点**：崩壊をやわらげつつ，生育に適した砂礫地の保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：松田万由美

ゴゼンタチバナ ミズキ科

Cornus canadensis L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



三国山 2004.6.23/撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では三国山のブナ帯上部にわずかに自生するが，チシマザサの密生により個体群は絶滅寸前。

■**特徴**：亜高山帯の針葉樹林内に生育する小型の多年生草本。高さ20 cmほどになる。葉は茎頂に1対，葉腋に2対つき，6枚が輪生しているように見える。花の咲かない茎では葉は4枚であることが多い。花期は6月，長さ3 cmほどの花柄の先に白色，花弁状の総苞片が4枚，長さ2 cmほど，頭状に集中して10–20個の小さな花をつける。果実は石果で球形，赤熟する。三国山では，開花個体はごくまれで，個体群の存続が心配される。

■**分布** 県内：三朝町。県外：北海道，本州（中部以北），愛媛県。

■**保護上の留意点**：採取防止。チシマザサを含む林床の管理。ブナ自然林の保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：永松 大

ヨロイグサ セリ科

Angelica dahurica (Hoffm.) Benth. et Hook.f. ex Franch. et Sav.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



日南町 2007.8.18/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：日南町大宮に観察記録（私信）があるが，生育情報不足。県内では希少と考えられるが，絶滅危惧評価には記録の蓄積が必要。

■**特徴**：川沿いなど日当たりがよく湿った場所に生育する大型の多年生草本。シシウドに近縁とされ。茎は高さ1–3 mになり中空。根元の太さは5 cm以上になり力強い。葉は2–3回3出羽状複葉で，小葉はシシウドより細長く，数が多い。縁はざらつく。葉柄の基部は鞘となって著しくふくれ，茎を抱く。花期は7–8月。白い小花を散形につける。根が漢方薬として使われ，栽培されることもある。大山に生育するエゾノヨロイグサよりも全体に大型。

■**分布** 県内：日南町。県外：本州（中国地方），九州。北東アジア。

■**保護上の留意点**：生育実態の調査が必要。

■**文献**：—

執筆：永松 大

エゾノヨロイグサ セリ科

Angelica sachalinensis Maxim. var. *sachalinensis*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2010.7.25 / 撮影：松田万由美

■**選定理由**：県内では、生育地が大山の標高1000 m以上の草原に限られる。存続基盤が脆弱であり、注意を要する。

■**特徴**：北方性で、県内では日当たりのよい山地草原に生育する大型の多年生草本。全体大きく高さ1-1.5 mになり、草原の中で抜きんでて高い。茎は赤紫色を帯びて細く直立し、上部で分枝する。葉柄の下部はふくらんで袋状になる。葉は2-3回3出羽状複葉、長さ15-40 cm、幅20-40 cm。小葉はやや肉厚長楕円形で、鋸歯があり、上面光沢、下面帯白色。頂葉片の基部は葉軸に流れない。花期は7-8月、大きな散形花序は多数の小散形花序からなり、白色。果実は広楕円形で両端はへこみ翼のようになる。

■**分布** 県内：大山。県外：北海道、本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：自生地の自然草原保全。

■**文献**：75。

執筆：松田万由美

ドクゼリ セリ科

Cicuta virosa L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



日南町 2009.7.12 / 撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：県内の自生地は1カ所のみで個体数は少ない。10年前より微増したが、イノシシ害など差し迫った絶滅の危険がある。

■**特徴**：沼や河川に生育する抽水性の大形多年生草本。流水地を好み、水田などでは見られない。根茎は太く緑色で短節中空。草丈は1 mに達し、多分枝する。茎は中空で、傷をつけると橙黄色で有毒の液が出る。葉は互生、1-3回3出羽状複葉で下部の葉には長柄がある。小葉は披針形、粗い鋭鋸歯縁、下面は白色を帯びる。花期は6-7月、白色、大形の散形花序をつけ総苞片は退化し線形。自生地は山間地の水田用水路。2010年は13株を確認した。2006年秋にはイノシシ害により、地上部が一時消滅した。

■**分布** 県内：日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。ユーラシア。

■**保護上の留意点**：地権者への啓発、用水路管理・改修時の配慮。100 m下流に少数の生育もみられ、個体群維持のためこの集団が重要。

■**文献**：8。

執筆：浜田幸夫（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

オオハナウド セリ科

Heracleum lanatum Michx. var. *lanatum*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



琴浦町 2010.6.1 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：近畿以北に分布し、県内が分布西限と思われる。県内東部には多いが西にいくほど減少する。生育実態について詳しい調査が必要。

■**特徴**：平地から山地の林内、林縁にはえる大型の多年生草本。茎は高さ2 mになり上部で分枝する。ハナウドに似るが、3出する茎葉が大きく、特に頂羽片は20 cm以上。茎の毛は北のものほど多く、県内産は少ない。花期は5-8月。散形の花序もハナウドより大きい。東部では海岸から山地まで見られるが、ハナウドとの関係を調査する必要がある。西部では鏝抜山まで確認。大山より西側はハナウドと思われるが今後の課題である。

■**分布** 県内：大山以東。県外：北海道、本州（近畿以北の主に日本海側）。

■**保護上の留意点**：森林、林縁部の草地の保護。

■**特記事項**：分布西限

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ムカゴニンジン セリ科

Sium sisarum L.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2010.9.6 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では日南町にて確認。本種に適した湿地は少なく、自生している水田周辺地は管理放棄やヨシなどの侵入により減少している。

■**特徴**：日当たりのよい湿地や池沼に生育する多年生草本。茎は直立し高さ50–80 cm。上部の葉は3出，下部の葉は単羽状複葉となる。小葉はほとんど無柄。花期は9–10月。花は白色で萼片はごく小さい。秋，根元や葉腋にむかごをつける。

■**分布** 県内：日南町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：湿地および休耕田等の維持管理，乾燥化の防止。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

イワウチワ イワウメ科

Shortia uniflora (Maxim.) Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2000.5.10 / 撮影：松本 綾

■**選定理由**：県内が分布西限。愛好家に人気があり，遊歩道沿いなど身近な自生地を中心に開花個体が採取され，株数は明らかに減少している。

■**特徴**：山地のやや暗い林床や尾根沿いのやや乾いた岩混じり急斜面林床に生育する常緑の多年生草本。根茎は横走。葉は根出し叢生する。葉は円心形で円切頭–凹頭，やや厚硬，光沢がある。波状歯縁で，長柄がある。和名は柄がついた形が団扇に似ること由来。花期は4–5月。径2 cmほどの淡紅色の花を1個つける。広鐘形で5裂し，各片はさらに細かく裂ける。イワカガミに類似するが，凹頭の葉形と花が1個である点で区別できる。

■**分布** 県内：若桜町，智頭町，鳥取市，三朝町。県外：本州（東北–中国地方）。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地の自然林保護。

■**特記事項**：分布西限。国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：松本 綾

マルバノイチヤクソウ イチャクソウ科

Pyrola nephrophylla (Andres) Andres

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



撮影：長尾利宏

■**選定理由**：全県的に分布はするが生育地は多くない。智頭町駒帰のスギ林内の群落は2010年シカに地上部を徹底的に食べられていた。若桜町落折では崖の崩落により減少。

■**特徴**：日あたりの良い山地の林床や草地に自生する多年生草本。葉は長さ幅とも3–5 cm，円形に近く，わん曲，葉脈は鮮明。花期は7月初旬–中旬。高さ15–30 cmの花茎の先に白色からやや赤みを帯びた花を5–10個つける。花茎はやや赤みをおび。2–3枚の鱗片葉がある。花は径1 cmほど，5 mmほどの小花柄の先に下方を向いて開花する。

■**分布** 県内：若桜町，智頭町，大山町，江府町，日南町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地草原の保全管理。登山道の除草に注意。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：長尾利宏

シャクジョウソウ シャクジョウソウ科
Monotropa hypopithys L.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



山梨県鳴沢村 2010.8.14 / 撮影：谷亀高広

- 選定理由**：自生環境の変化に弱く、生育条件が限られている。詳細は不明ながら、県内では発見例が少ないため今回は情報不足とした。
- 特徴**：山地の薄暗い林下に生育する菌従属栄養植物。葉緑体は持たない。樹木と共生し生育するキシメジ科キシメジ属の菌種から養分を得て生育する。葉は鱗片状。花期は6–8月、10–20 cmの花茎を伸長させ、4–8花を花茎の先端にまとめて付ける。花は長い鐘型。全体淡黄色褐色で、目立たない。
- 分布** 県内：自生報告はあるが情報不足のため調査が必要。 県外：北海道，本州，四国，九州。北半球温帯域に広域分布。
- 保護上の留意点**：山地自然林の保全。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種
- 文献**：79.

執筆：谷亀高広

ギンリョウソウモドキ シャクジョウソウ科
Monotropa uniflora L.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



大山 2010.9.15 / 撮影：矢田貝繁明

- 選定理由**：県内に分布することは明らかだが、生育記録が少なく生育実態未解明。今後の調査が必要な種の一つ。
- 特徴**：山地林内のやや暗いところに生える菌従属栄養植物。葉緑体は持たない。全体に白色で、高さ10–25 cm。鱗片葉の先には不規則な歯牙がある。花期は8–9月。茎の先に1個の花をつける。ギンリョウソウよりも少なく、花の時期も遅い。大山では比較的安定してみられる。別名アキノギンリョウソウ。
- 分布** 県内：点在。情報不足のため調査が必要。 県外：本州，四国，九州。北半球温帯域。
- 保護上の留意点**：山地森林の保護，保全。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種
- 文献**：—

執筆：永松 大

コメバツガザクラ ツツジ科
Arcterica nana (Maxim.) Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2010.6.9 / 撮影：浜田幸夫

- 選定理由**：県内では大山上部の風衝草原や岩礫地に分布が限られ、生育範囲と個体数ともに希少。すぐに絶滅する状況ではないが、注意を要する。
- 特徴**：亜高山帯の岩礫地や草地に群生する常緑小低木。幹の下部は細く分枝し、横にはって高さ5–15 cm。葉は3輪生し楕円形、円頭、革質。縁辺はやや反面し、長さ約0.5–1 cm。花期は大山では5月上旬–6月上旬。花は茎頂に3個輪生、下向きに咲き、径約4 mm。花は白色で壺形、花冠の先端は5浅裂、おしべは10本。果実は扁球形。大山では稜線部の日当たりのよい岩礫地や草地に生育している。
- 分布** 県内：大山。 県外：北海道，本州（中部以北）。千島，カムチャツカ。
- 保護上の留意点**：自生地内への登山者の立ち入り禁止および採取防止。
- 特記事項**：分布西限。国立・国定公園採取禁止指定種
- 文献**：72.

執筆：浜田幸夫（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

ミヤマホツツジ ツツジ科

Cladothamnus bracteatus (Maxim.) T.Yamaz.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2009.7.28/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では大山の高標高域にのみ分布が限られており、生育範囲・個体数ともに希少。生育基盤が弱く、注意していく必要がある。

■**特徴**：亜高山帯-高山帯の草地や岩場、林縁に生育する落葉低木。大山では山頂部や稜線部の風衝地に生育し、小群生をなす。高さは20-30 cm。葉は互生で倒卵形、鈍頭、全縁。花期は7-8月、枝先に数個の白色の花をつける。標高の低い山地に見られるホツツジは、葉が大きく鋭頭で、花は帯紅白色で円錐状につく。生育地の崩壊や人為的な踏みつけなどで個体数の減少が心配される。

■**分布** 県内：大山稜線部。県外：北海道、本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：自生する風衝地への立ち入り禁止。採取防止

■**特記事項**：分布西限。国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：鷲見寛幸

サラサドウダン ツツジ科

Enkianthus campanulatus (Miq.) G.Nicholson

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



那岐山 2009.6.9/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部、岡山県境の稜線部にのみ自生する。分布域がせまく、岩地で生育基盤が脆弱である。

■**特徴**：山地の岩地に生育する落葉低木。高さ2-5 m。葉は互生、枝先に輪生状につく。葉身は倒卵状楕円形で縁に微細鋸歯がある。花期は5-6月、鐘形で枝先に下垂する。色は淡紅色、筒部は黄白色で紅色の縦線がある。県内ではブナ帯尾根の安山岩露出地にネジキ、ナナカマド、ヒサカキなどと混生する。

■**分布** 県内：若桜町、智頭町。県外：北海道、本州、四国。

■**保護上の留意点**：山地自然林の保全。採取防止

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：西尾幸弘

ベニドウダン ツツジ科

Enkianthus cernuus (Siebold et Zucc.) Makino f. *rubens* (Maxim.) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



智頭町 2009.6.9/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部、岡山県境の稜線部にのみ自生し、分布域がせまく生育基盤が脆弱。サラサドウダンよりも数が少ない。

■**特徴**：山地の岩地に生育する落葉低木。枝は根元から分枝する。葉は枝先に輪生状につき、楕円形で縁に細かい鋸歯がある。花期は5月下旬-6月中旬。花は壺形で赤色、枝先に下垂する。ブナ帯上部、安山岩の露出も見られる尾根にネジキ、ナナカマド、ヒサカキなどと混生する。花冠裂片が細裂する点で、サラサドウダンとは別種として扱われている。

■**分布** 県内：智頭町。三朝町。県外：本州（関東以西の太平洋側）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地森林の保全。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：43.

執筆：西尾幸弘